

# 第2号

(2023年5月10日)

# 鶺鴒だより

発行：岩手保健医療大学  
学報編集委員会

(委員長：学長 濱中喜代)

TEL：019-606-7030

<http://www.iwate-uhms.ac.jp/>

※鶺鴒「せきれい」には、「背筋を伸ばした美しい姿勢の鳥」という意味があります。

2023 (令和5) 年5月10日



令和5(2023)年度 入学式 式辞  
岩手保健医療大学 学長 濱中喜代

■岩手保健医療大学の学長を務めます濱中喜代と申します。  
■この佳き日にご入学された学部生、大学院生の皆様、誠にありがとうございます。岩手保健医療大学の教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。保護者の皆様におかれましては、喜びはいかばかりかとご拝察申し上げます。誠にありがとうございます。ここに式辞を述べさせていただきます。

■COVID-19の感染パンデミックから、はや4年が経ちます。ウィズコロナ時代が続き、まだ収束の見込みが立たない厳しい状況でございます。国外においては、ロシアのウクライナへの軍事侵攻が1年以上も続き、さらに状況は厳しく、いまだ多くの方々の命が危険に晒されています。悲惨な攻撃が1日も早く終わることを願うばかりです。そのようななか、皆様には本学の学部生第7回生として、また大学院生第3回生として入学されました。

■社会情勢が厳しいなかで、人々の生命と生活を守る看護専門職を目指そうとしている皆様、また新たに看護学を極めようとしている皆様の決意に心から敬意を表します。それぞれ個々人の将来の夢は少しずつ異なるかもしれませんが、本学への入学を機に大学生として、大学院生として研鑽を積み、仲間と切磋琢磨して、皆様が目指す夢を実現してほしいと思います。

■本学の建学の精神は「人々の生活と健康を高め、地域社会に貢献するケア・スピリットを備えた保健医療人」でございます。ケア・スピリットは本学が独自に造った言葉で「自ら進んでケアに向かう姿勢」と定義しております。

■同じ看護行為であっても、相手に寄り添い、相手の最善を目指して思いやりの心をもって、専門的な知識・技術に裏づけられたケアをすることは、只々漫然と形だけ行なうことは、大きな違いがあります。

■繰り返しになりますが、本当の看護は相手に寄り添い、相手の最善を目指して思いやりの心をもって、専門的な知識・技術に裏づけられたケアであり、ケア・スピリットがとても大切になるということでございます。

■本学では、大学生には4年間を通して、ケア・スピリットを身につけてもらい、看護を提供する場で、ケア・スピリットを十分に発揮できる看護職の育成を目指します。大学院生にはケア・スピリットをさらに教育・研究・社会貢献に結び付け発展させることのできる実践的・研究的な資質を育みたいと思います。

■新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界は大きく様変わりしました。看護学教育の場も深刻な影響を受けております。特に看護学の大切な学びである医療施設での実習ができなくなるという、残念な事態が生じました。私どもはそれに対して教育方法において様々な工夫を凝らして対応して参りましたし、今後も教育の質の維持・向上を図るために、さらにより良い方策を検討し実践していく所存でございます。

■ここで、44年前の1979年にノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサとその言葉を紹介いたします。マザー・テレサの誕生日は、1910年8月26日または8月27日とされています。誕生日の翌日にはキリスト教の洗礼を受けました。マザー・テレサは修道女として若い頃から献身的に働き、インドのベンガル地方に派遣された際に、スラムの貧しい人々の現実を目の当たりにします。1946年9月、マザー・テレサは汽車の中で「すべてを捨て、貧しい人のために働きなさい」という啓示を受けたとされ、この日は「決意の日」と言い伝えられています。コルカタ(カルカッタ)のスラムで働くことを決意したマザー・テレサは修道会を退会しました。38歳のときのことで、そしてそれまで在籍していた修道会を退会してインドでの活動を本格的に始めます。その後、マザー・テレサは「神の愛の宣教者会」を創立し、修道院や重い病気などで瀕死の人の診療所、孤児院、ハンセン病診療所などを相次いで開設して、貧しい人への奉仕に生涯を捧げました。活動は世界中に広がり、ノーベル平和賞を受賞後も献身的な活動を継続し、「神の愛の宣教者会」の修道院の数はインドに159、世界に230に達していました。受賞18年後の1997年9月5日に永眠し、87年の生涯を終えました。

マザー・テレサの言葉に「愛の反対は憎しみではありません。それは、愛がないことです。無関心です。だれにも望まれていないと感じるとき、人はもっとも深く傷つきます」というものがあります。人に関心を持つことは看護学においても大変重要なことです。看護学は人との関わりを基盤にする学問であるからです。皆様には看護する相手に関心をもち、愛をもって、自分の在り方を考えられる人になってほしいと願います。またマザー・テレサのように社会情勢に目を向け、アンテナを高く保ち、将来、社会のなかでケアを必要としている人々に手を差し伸べる人になってほしいと思います。このことは先のケア・スピリットとも大きく関係することです。ぜひとも心にとどめてください。

■最後に大学生、大学院生になる皆様にご挨拶についてお話しします。大学生の皆様はこれまで高校生活では親御さん、先生方、周りの方々に守られて過

してきたのではないのでしょうか。大学生になり、成年にもなりました。入学後は自分の行動に責任をもって、自分を律することのできる自律した人間を目指しましょう。科学である看護は人々を援ける尊いお仕事です。これから勉強するので今は確かなイメージがない方もいらっしゃるかもしれませんが、看護学を究めることは決して簡単なことではありません。まず、自分のことを、自分ができなすべきことを認識して、きちんとでき、なすようにしてください。そのことが今後の大学生活の基礎となります。そのうえで、困ったときにはいつでも教職員に相談してください。自分だけで抱え込まないようにしましょう。

■私はこれまでの大学における長きに渡る看護学教育の経験から、大学1年生から4年生まで指導していくなかで、大学生の皆様が4年間のあいだに本当に大きく成長していく様を目の当たりにしてきました。本学を卒業

した先輩もまさにそうでした。看護学を学ぶという大学生活が皆様に人間としてより成長させる貴重な機会になりますことを心から願っております。

■大学院生の皆様は、皆様社会人としての経験・実績のあるのでありますので、是非これまでの経験を活かしつつ、研究を通して看護学を極めるとともに、学ぶものとしての時間を大切に、精進してください。

まだまだ自粛生活を余儀なくされてはおりますが、皆様には学生生活を思う存分楽しみながら、学んでいかれることを心から祈念して、私からの式辞と致します。



## 令和5(2023)年度 入学生 宣誓 看護学部 入学生代表 氏名 花凛 さん



■暖かな春の訪れとともに、私たちは期待を胸に岩手保健医療大学に入学いたします。本日は私たち新入生のため、このような厳粛な入学式を挙げていただき、誠にありがとうございます。

■新型コロナウイルス感染症が減少傾向にある今、私たちの生活は少しずつ日常に戻ってきたところでもあります。私たちは

コロナ禍でこれまでとは異なった学生生活を送ってきました。その中で医療現場が逼迫しているというニュースを多く目にするようになり力になりたいと思い、改めて医療従事者を目指したいと強く感じました。

■私は将来、予防医療に関わり、人々の健康維持のために人々に寄り添う保健師になりたいと考えています。時には大きな壁にぶつかるともあると思います。そんな時は仲間と支え合い、乗り越えていきます。看護師や保健師になることは決して簡単なことではありませんが、自分、仲間を信じて、自分が選んだ道を歩んでいきたいと思えます。4年後、そしてその先、自分はこの道を選んで良かったと思えるように、何事にも積極的に取り組んで参ります。そしてここまで私たちを導いて下さった家族や多くの方々

への感謝の気持ちを忘れず、目標に向かって日々精進して参ります。

■入学後は岩手保健医療大学の一人として1歩ずつ夢に向かって歩んでいきます。本学が教育で大切にしているケア・スピリットを身につけられるように日々の積み重ねを大切にしていきたいです。そして将来は地域・社会に貢献できる人材になりたいと思います。これから始まる新たな生活には喜びや期待とともに不安な気持ちもあります。楽しいこと、辛いこと、沢山の経験を積み、この4年間をかけがえのないものにしていきます。

■これからお世話になる教職員の皆様、先輩の皆様のご指導のもと、一人一人が卒業式を笑顔で迎えられるよう、新入生一同一生懸命勉強や実習等に取り組んでいくことをここに誓います。

## 新入生の皆さん、ようこそ！

(2023年度新入生歓迎会より)



▲本学の「さんさサークル」が、太鼓を鳴らし笛を吹き踊りながら新入生を歓迎しました。

●4月10日(月)に新入生歓迎会が行われました。第1部では、卒業生からのビデオメッセージがリレー形式で上映されました。メッセージを担当した5名からは看護師、保健師、助産師、養護教諭としてそれぞれの職場で奮闘している様子や大学生活の過ごし方、大事な教科目、国家試験対策、就職先の決め方などについてアドバイスがあり、看護は大変な職業だが責任とともにやりがいがあるので頑張ってくださいとエールが送られていました。新入生は熱心に聞き入っていました。卒業生からそれぞれの進路が紹介されたことで、看護職の活躍の場が多様であることが伝わっていました。また1年生では解剖生理が重要であることや、国家試験合格に向けた対

策なども話され、新入生の学修の動機づけになっていた様子でした。●第2部は2~4年生の上級生企画でした。最初にさんさ踊りが披露されました。本学には「さんさ踊り実行委員会」があり、毎年、さんさ踊りに出場しています。太鼓・笛・手踊りの一行が講義室内を練り歩きました。お囃子と手踊りの迫力は圧巻で、講義室内に一体感が生まれ盛り上がりを見せていました。早速、さんさ踊りに参加したいという新入生の希望が聞かれました。●また新入生と上級生、教員の混合メンバーでグループを作り、アイスブレイクや質問に答えるコーナー、スタンプラリーなどが行われました。スタンプラリーは、キーワードの完成を目指して学内を

探索していました。学年の垣根を越えてメンバー間で協力し合い、各ポイントの文字を組み合わせ「ケア・スピリット」を完成していました。●この日を迎えるにあたり、上級生は教職員とともに数か月前から入念な準備をすすめていました。新入生同士はもとより、上級生や教職員と交流することで、緊張感が解けて新入生にとっては、これから始まる大学生活への期待が持てる機会となりました。上級生からは「他学年と交流できてよかった」「新入生に喜んでくれた」「準備や当日の活動を通して自分の自信になった」という意見が聞かれていました。上級生にとっても有意義な機会となり様々な気づきが得られていました。(学生委員会委員長：石井真紀子)

## 編集後記

■岩手保健医療大学は2017(平成29)年4月に開学し、本年4月で7年目を迎えます。学部では3期生の卒業を、大学院では1期生の修了を迎えました。■気持ちも新たに8年目のスタートを切る節目として『鶺鴒だより』と題した学報の発行にこぎ着けました。■創刊号は、卒業生と修了生の答辞に加え学長の式辞を、そして第2号は、新入生の宣誓と学長の式辞に加え、在校生と教職員による新入生歓迎企画を取り上げました。■新入生を送り出された保護者の皆様は、お子様の生活や学修面をご心配のことと存じますが、ひとまず一列に並び、揃ってスタートしたことを報告させていただきます。■この学報が高校生、学部生、大学院生、ご家族、地域社会、教職員の情報交流の場として、号を重ねることを目指して参ります。(編集子)